資料２－１

㊟

市立高等学校改革の方向性
（答申）

千葉市学校教育審議会

平成３１年１月２１日

はじめに

千葉市立千葉高等学校及び千葉市立稲毛高等学校・同附属中学校はこれまでも社会の変化や教育改革に対応して、新学科の設置や教育課程の改善、附属中学校の設置など、市民の期待に応える様々な改革を行ってきた。

しかしながら、近年加速してきている教育改革の中で、新たな課題も明らかになってきており、市立高等学校の更なる発展のための改革について千葉市学校教育審議会（以下、審議会という。）で審議することとした。

審議会は、千葉市教育委員会教育長からの諮問「市立高等学校改革の方向性について」（平成３０年５月）を受け、審議を行った。

審議内容が多岐にわたることから、まず、審議会委員から２名及び外部から学識者２名の４名で組織する「市立高等学校の教育課程等に係る部会（以下、部会という。）」を設置し、将来の教育課程や教育活動等について審議内容を整理した。部会では、両校がさらに魅力ある学校へと変革をするため、市立千葉高等学校の先進的な理数教育の拡充について及び市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行について主に検討を行い、審議会へ報告した。

これをもとに、審議委員が様々な視点で自由に意見交換を行い、より市民ニーズに応えることのできる市立高等学校の姿を提言することを目指し、答申を作成した。

本答申をもとに、教育委員会の支援のもと、両校がそれぞれの特色を鮮明にし、さらに魅力あふれる学校づくりを行い、日本人として千葉市に軸足を置きながら地球規模で活躍できる人材を数多く輩出する学校となることを期待するものである。

目次

はじめに

１　千葉市が目指す市立高等学校のビジョン・・・・・・・・1

２　これまでの市立高等学校改革の取組み・・・・・・・・・3

３　市立千葉高等学校の改革について・・・・・・・・・・・6

４　市立稲毛高等学校・附属中学校の改革について・・・・11

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

１　千葉市が目指す市立高等学校のビジョン

（１）目指すべき人材像

これからの時代は、グローバル化の進展やＡＩ等の先端技術の高度化に伴い、想像以上に社会構造が大きく変化していくとされる。同時に、価値観の多様化への対応も求められている。こうした予測が困難な時代への対応は、高等学校にも求められる。

一方で、時代の変化に翻弄されることなく、しっかりと自分の軸足の置きどころを定めることが、大切なことである。青年期には、自分にはどのような力があって、何を成し遂げることができるのかを探ることが成長の課題となる。その基礎となる能力の育成が、高等学校時代には求められる。

千葉市立の高等学校で学ぶ生徒の多くは、小学校から高等学校までの１２年間を故郷（ふるさと）千葉市で教育を受ける。故郷に愛着と誇りを持ち、感謝の念を抱き、本市を心のふるさととしつつ、自立した社会人として、本市をはじめ我が国や国際社会に貢献できる人材へと成長することで、千葉市が誇れる人材へと成長することを期待したい。

また、現代社会における課題は地球規模で発生しており、世界的な視点に立ち、広い視点でものごとを見ていく能力が必要であるとともに、身近な課題へも眼を向けるという、バランスのとれた見方や考え方が求められている。

市立高等学校での学びには、身近な地域に存在する多くの生きた課題を探究することと、併せてそれらの課題を世界的な広い視点で捉え直す学びが求められる。その学びをとおして世界的な視点と身近な地域に根差した視点を併せ持つ、グローバルな課題をもより効果的に解決することができる人材を育成してほしい。

以上を踏まえ、千葉市立の高等学校においては、次に示す人材の育成を目指すこととする。

○　千葉市に誇りを持ち、千葉市が誇れる人材
～ローカルな視点からグローバルな視点までを併せ持ち
課題を効果的に解決することができる人材～

（２）目指すべき人材像に求められる力

千葉市が求める人材として必要となってくる力については、次のとおりである。

①　粘り強く取り組む強い意志と力強い行動力

変革が激しく予測困難な時代にあっても、課題解決に向けて、決してあきらめることなく貫き通す強い意志と、自らの意志で行動できる実行力が求められる。

②　多文化共生社会に対応できるコミュニケーション力

グローバル化が進展する中、多様な価値観を持った人や異なる文化で生まれ育った人との交流において、臆することなく関わることができ、チームを組んで協力し合い、リーダーシップを発揮していくことができる力が求められる。また、アウトプットだけでなく、インプットとしての読解力等の基盤的学力の定着を図ることも求められる。

③　伝統を大切にしながらも、固定観念にとらわれず、自由な発想、柔軟な思考ができる力

新しいことへの取組みでは、過去の取組みをまったく無にしていくことではなく、今までの積み重ねの上に、常識にとらわれず、自由な発想と、柔軟な思考力により、新たなる価値を創造していくことが求められる。

本審議会は、両校がこれまで取り組んできている、市立千葉高等学校の先進的な理数教育や市立稲毛高等学校の国際教育及び中高一貫教育という特色ある教育活動について、引き続き力を注ぎ、特色をより高めて

いくことを求めるとともに、両校の卒業生が、将来、様々な分野へ進出し、それぞれの立場で課題解決にあたり、世界の人たちとも対等に渡りあえるなどの真に力あるグローバル・リーダーとなることを望むものである。

２　これまでの市立高等学校改革の取組み

千葉市は、経済発展に伴う市民の教育的関心の高まりと高校進学希望者の増加に対応し、新都市にふさわしい千葉市民の教育機関として、昭和３４年４月に千葉市立高等学校（当時の名称。市立稲毛高等学校が開校した時に現在の千葉市立千葉高等学校へ校名を変更。）を、昭和５４年４月に市立稲毛高等学校の２校を開校させた。両校とも普通科のみでスタートしたが、我が国における理数教育と国際教育の必要性の高まりを受けて、市立千葉高等学校では昭和５４年４月に理数科１クラス、市立稲毛高等学校では平成２年４月に国際教養科１クラスを設置した。

その後、少子化の進展等の社会情勢の変化により、高等学校では特色ある学校づくりが求められ、両校とも質的な変化への対応が課題となった。平成３年４月には中央教育審議会答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」において、情報化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応することが提言され、全国的に高等学校改革が行われるようになった。

千葉市でも、高等学校が直面する様々な課題の解決を図るため、学校教育制度や施設設備の面から基本的な方向を構想する必要性を認識し、あいついで検討会を設置した。

まず、平成１２年度から１４年度において、文部科学省の中高一貫教育実践研究の委嘱を受け、「千葉市中高一貫教育研究会議」を設置し、千葉市における中高一貫教育の可能性について研究を進め、平成１５年３月に「千葉市における中高一貫教育について（第２次報告）」をまとめた。

また、開校から４０年が経過する市立千葉高等学校では千葉市立千葉

高等学校改築事業に基づき、平成１４年度に改築の在り方について検討する「千葉市立千葉高等学校改築構想専門検討委員会」を設置した。その答申を受け、教育委員会は「千葉市立千葉高等学校改築基本構想及び（同）基本計画」をまとめ、平成１５年度に「千葉市立千葉高等学校改築基本計画」を策定した。

これらの答申を受け、千葉市として市立両校をまとめた基本方針を策定することとし、平成１５年度に教育委員会内に「千葉市立高等学校在り方研究会」を設置し、今後の市立高等学校の在り方について検討を行った。そして、学識経験者や保護者等からの意見や提言等を総合的に勘案し、平成１７年６月に「千葉市立高等学校改革基本方針」を策定し、両校が生徒の才能を十分に伸長させる魅力ある学校づくりを行う際の指針となる方針を定めた。

大きな変更点として、市立千葉高等学校は、これまでの理数教育の実績を生かしつつ、多様な進路ニーズに対応する単位制を平成１９年度入学生より導入し、進学重視型単位制高等学校として再スタートすることとした。

一方、市立稲毛高等学校は、これまでの英語教育の先進的な取組みを発展させるとともに、併設型中高一貫教育校とする方針を決定し、平成１９年４月に併設型の市立稲毛高等学校附属中学校（以下、附属中学校という。）を開校した。

これにより、市立千葉高等学校は多様な選択科目と１日７時間授業の進学重視型単位制高等学校として、市立稲毛高校は真の国際人の育成する中高一貫教育の実践校として、いずれも特色ある教育課程に基づく教育を行う学校となった。両校とも市民から高く評価され、志願倍率も高く、優れた進学実績を誇り、我が国の発展を支える前途有為な人材を輩出し続けている。

このように両校は優れた成果をあげてはいたが、千葉市では、社会の変化や教育改革に対応し、将来をみすえて市立高等学校をさらに発展させることを目指し、今回の審議会へ続く、一連の施策を展開してきた。

まず、千葉市の教育振興基本計画の一つとして平成２１年３月に「千

葉市学校教育推進計画」を策定し、具体施策の一つとして「市立高等学校教育の充実」を掲げ、そのアクションプランとして「市立高等学校改革の評価・検証」を位置付けた。

これに基づき、生徒や保護者、教職員等へのアンケート調査や聞き取りを行って改革の成果と課題を洗い出し、平成２３年２月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証（中間まとめ）」（以下、「中間まとめ」という。）として整理した。さらに平成２５年３月には、附属中学校１期生が市立稲毛高等学校を卒業したことから、「中間まとめ」に示された課題への対応とこれまでの成果の検証を改めて行い、平成２６年３月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証（最終まとめ）」（以下、「最終まとめ」という。）として取りまとめた。

「最終まとめ」では、市立高等学校改革の成果として、両校ともに進路ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生から高い満足度が得られているなど、非常に高い評価を受けていることが挙げられている。一方で、市立高等学校改革の成果をより地域全体に波及させるための更なるアピールや、高大連携大学入試改革等に対応した教育課程の編成、市立稲毛高等学校については附属中学校から入学した生徒（内進生）と高等学校から入学した（外進生）との学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体の検討等の課題が示されており、両校がより特色ある学校としてさらに発展することが求められているとした。

また、平成２８年３月に発表した「第２次千葉市学校教育推進計画」に、市立高等学校の改革を強力に推進するため具体的な行動計画を策定することを盛り込むこととし、並行して、平成２７年４月に設置した千葉市立高等学校改革推進会議において、市立高等学校改革の具体的な取組み内容や時期について議論を重ねた。その結果が、平成２８年３月に「第２次千葉市学校教育推進計画に基づく市立高等学校の改革を推進するための行動計画」（以下、「行動計画」という。）としてまとめられた。

「行動計画」では、中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革について」（平成２６年１２月）の提言内容や千葉県の「県立高

校改革推進プラン」の動向等を踏まえて、２校の「市立」ならではの特色と魅力をさらに高め、その存在意義を明確にすることが提言された。

具体的には、両校に共通することとして、次の８項目が示された。

① ２校の教育資源を共有する取組み

② 小中学校及び大学との連携・接続を推進する取組み

③ 地域とともにある学校づくりに向けた取組み

④ 入学者選抜方法の改善に向けた取組み

⑤ 施設の整備

⑥ 広報活動の充実に向けた取組み

⑦ 教職員の資質向上に向けた取組み

⑧ 教育委員会事務局の組織体制強化

また、市立千葉高等学校については次の２点が示された。

① 千葉高等学校のＳＳＨ継続指定に向けた取組み

② 進学重視型単位制の進化に向けた取組み

さらに、市立稲毛高等学校については次の２点が示された。

① 稲毛高等学校のＳＧＨ新規指定に向けた取組み

② 中高一貫教育の推進

本審議会では、以上の流れを踏まえ、両校の現在の校訓及び学校教育目標を基盤に、市立千葉高等学校については理数教育を軸とした改革を、市立稲毛高等学校・附属中学校については中等教育学校への移行を軸とした改革について、審議した。

３ 市立千葉高等学校の改革について

（１）市立千葉高等学校の現状と成果及び課題

① 教育方針、校訓等

市立千葉高等学校の教育方針、校訓、努力目標は次のとおりである。（学校要覧から抜粋）

○　教育方針

ア　生徒一人一人が人間としての在り方・生き方についての自覚を深めるとともに他人の人格を尊重する態度を育成する。

イ　国家社会の有意な形成者となることを目指し、国際的視野に立って諸々の事象を判断し、その行動に責任をもつ態度を育成する。

ウ　社会の変化に主体的に対応できる知識技術を身につけ、これらを実践に移す積極的な態度を育成する。

エ　心身の健全な発達を図り、生涯にわたって努力する勤勉な学習態度を育成する。

オ　青年らしい明朗闊達な精神をもって個性を伸長し、自信と希望に満ちた生活設計を樹立しようとする態度を育成する。

○　校訓

「強く　明るく　より高く」

○　努力目標

ア　各教科の指導内容を充実させ、基礎・基本の学力の定着と個々の適性の伸長を図り、自己教育力の育成を図る。

イ　特別活動を通じ、集団の一員としてのよりよき生活習慣を身につけさせるとともに、個々に応じた能力の育成を図る。

ウ　生徒理解の考えを基本として、自主性を伸ばす生徒指導を推進し、誠実でたくましい心豊かな国際人の育成を図る。

②　成果

○　平成１９年度から、進学重視型単位制を導入し、多様な進学ニーズに対応するため、教育課程に多彩な選択科目や学校設定科目を設置するとともに、授業時数を確保するため４５分７時限授業を展開（現在は、５０分７時限授業となっている。）している。その結果、国公立大学や私立大学の合格者数が顕著に増

加した。

○　平成２４年度から５年間、文部科学省よりＳＳＨ（スーパー・サイエンス・ハイスクール）第２期の指定を受け、全国に先駆けて先進的な理数教育の研究開発（質の高い課題研究指導、教科を横断したクロスカリキュラム授業、専門性の高いフィールドワーク等）を行い、文部科学省の中間評価において全国で最も高い評価を受けた。その結果、平成２９年度から５年間、第３期の指定を受けることとなり、継続して先進的な理数教育に取り組んでいる。

千葉市では、平成２２年度より「科学都市戦略構想」を掲げており、市・産業界・大学等研究機関・市民団体等が連携し、市民が科学技術に触れる機会を創出するとともに、科学技術の分野で活躍する人材を千葉市から輩出することで、産業基盤の強化を図る取組みを推進している。市立千葉高等学校の取組みは、科学都市戦略推進に大いに寄与している。

○　入学者選抜における志願倍率は、前期選抜、後期選抜ともに市内公立高等学校の平均を大きく上回っており、学校に対する市民の評価と期待の高さがうかがえる。

③　課題

○　国の高大接続改革に伴う大学入試改革や高校教育改革の動向に対応するためには、進学重視型単位制のメリットを生かした教育課程の更なる進化（課題解決型学習の導入や英語教育の充実等）が求められている。

○　千葉市では平成２２年度から「科学都市戦略構想」を掲げ、「科学都市ちば」を目指して取り組んでいるが、市立千葉高等学校には、千葉市の理数教育の拠点としての更なる役割の拡大

が求められている。

（２）改革への提言

①　基本的な方向性

これまでの取組みを継続発展させ、学校教育目標を達成するように教育実践の工夫改善に取り組むことが望ましいと考える。

そのために、高大接続改革など国の教育改革に対応する教育活動や、ＳＳＨの継続指定に向けた取組みを推進し、進学重視型単位制や先進的な理数教育を軸とした学校教育活動全体の更なる充実を図り、これからの社会を力強く生き抜き、地球規模で活躍できる人材の育成を目指す。

②　具体的な取組み

ア　ＳＳＨで研究開発した取組みの成果をもとに、学校全体で、これからの社会で必要とされる能力（課題発見能力・課題解決能力・自己表現力等）を効果的に育成する教育課程を構築することが求められる。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・クロスカリキュラム（教科横断型授業）の更なる展開

・「社会とつながる探究」をテーマにした総合的な探究活動の時間の導入

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

・多様な学びを可能とする施設設備の改善

・学校の取組みを支援する教職員人事

など

イ　小中学校との連携を推進し、理数教育の拠点校としての役割

を強化することが求められる。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・小中高連携組織の設置と拠点校としての役割

・フィールドワークなどのＳＳＨ事業への小中学校教員の参加促進

・小中学生を対象とする理科自由研究相談会の実施

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

・小中高連携事業への支援

など

ウ　グローバル人材の育成に必要とされるコミュニケーションツールとしての英語力の習得を目指した教育環境づくりを推進することが求められる。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・地域の人材を活用した「チーム学校」の更なる推進

・英語の４技能（聞く・話す・読む・書く）の習得状況を把握するための外部試験等の導入

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

・外国人講師の増員や外国人留学生等のＴＡ（ティーチング・アシスタント）の導入

など

４　市立稲毛高等学校・附属中学校の改革について

（１）市立稲毛高等学校・附属中学校の現状と成果及び課題

①　教育方針、校訓等

市立稲毛高等学校の教育方針、校訓、教育目標は次のとおりである。（学校要覧から抜粋）

○　教育方針

「本校は附属中学校を併設する市立の高等学校として千葉市民の期待と要望に応え、次代を担う有意な社会の形成者の育成を目標に、生徒一人ひとりの個性の伸長と能力の開発に努め、心身ともに健全で、連帯を重んじ協調性に富む調和のとれた人間の形成を目指す。」

○　校訓

「真摯・明朗・高潔」

○　教育目標

生徒一人ひとりの学校生活を充実させ、アイデンティティーの確立を支援して、「確かな学力」「豊かな心」「調和のとれた体力」を培い、国際社会の一員として、自ら発信・行動できるグローバル・リーダーを育成する。

１）確かな学力（学力向上、進路指導の強化）

主体的・対話的で深い学びを目指した質の高い授業により、向上心や知的好奇心を育み、バランスのとれた確かな学力を身に付け、学びを人生や社会に生かそうとする人材を育成する。

２）豊かな心（自主性、個性、社会性の伸長）

人間としての在り方を考察させ、真理と正義を愛し、個性の価値を学び勤労と責任を重んじ、多様性を受容する豊かな心を持った人材を育成する。

３）調和のとれた体力（心身の調和と体力の向上）

自由闊達で充実した学校生活の中で、調和のとれた体力を身に付け、心身ともにたくましく生きる人材を育成する。

② 成果

○ 中高一貫教育校で認められている教育課程の特例を生かし、６年間を見通した柔軟な教育課程の編成、特色ある学校設定科目の設置、総合的な学習の時間における発達段階に応じた課題解決型学習等に取り組んでいる。その結果、知識だけではなく思考力・判断力・表現力を必要とするいわゆる難関大学の入試にも対応できる力を身に付けさせることができ、それが合格実績の向上にも表れている。

○ 文部科学省よりＳＥＬＨｉ（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）の指定を受けた際に開発した先進的な英語教育を行っており、英語の４技能（聞く・話す・読む・書く）をバランス良く身に付けさせている。その結果、英語の民間試験（ＧＴＥＣ）におけるスコアは毎年全国平均を大きく上回っている。この高い英語力を基礎に、国際教育（国際交流事業、海外研修等）を充実させており、スーパーグローバル大学（文部科学省指定）へ進学する生徒も多い。

○ 市立千葉高等学校同様、入学者選抜における志願倍率は前期選抜、後期選抜ともに市内公立高等学校の平均を大きく上回っており、学校に対する市民の評価と期待の高さがうかがえる。

③ 課題

○ 内進生については、中高一貫教育の教育課程の特例による柔軟な教育課程の編成を行っているが、外進生との学習進度に違いが生じるため、特例による教育課程の編成は限られたものと

なっている。中高一貫教育への高いニーズも踏まえ、学校の教育体制全体にわたる見直しを検討する必要がある。

○　グローバル化や多文化共生社会の進展に対応し、学校の特色をより鮮明にするためには、これまで以上に英語教育、国際教育を充実させることが求められる。外国人教員の配置や留学生の受入れを拡充するなど、常に多様性のある環境で学ぶことができるよう検討する必要がある。

（２）改革への提言

①　基本的な方向性

中高一貫教育への市民ニーズに対応するとともに、中高一貫教育の特性がさらに生かせるよう、現在の併設型中高一貫教育校から中等教育学校へ移行させる。

その際、後期課程では現在高等学校に設置している国際教養科を廃止して普通科のみとするが、国際教養科の成果を生かし、これまでの英語教育、国際教育をさらに充実させ、グローバル・リーダーの育成を目指す。

②　具体的な取組み

ア　中等教育学校に移行させ、中高一貫教育校の教育課程上の特例を十分に活用した教育課程を編成することにより、学習内容を深め、幅広い教養を身に付けた人材を育成する必要がある。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・前期課程と後期課程間の指導内容の重複の解消、教科内容の組み換えによる系統的な学習指導などのカリキュラム開発

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、

次の点について検討する必要がある。

・中等教育学校への移行に向けての制度設計

・カリキュラム開発への支援

・移行期を含めた教職員人事への配慮

・施設設備の改修を含む教育環境の整備

など

なお、中等教育学校移行に向けての制度設計の大枠については、資料編「【資料７】市立稲毛高等学校・附属中学校における中等教育学校の基本的な枠組みについて」を参照。

イ　６年間の学びの連続性を生かし、将来を見据えた探究活動を生徒の発達段階に応じて計画的に実施することにより、グローバル･リーダーとして必要な資質･能力を育成する必要がある。

その中には、質疑応答やディスカッションができる能力、探究活動の成果を千葉市や企業等に提言して実現に向けて行動を起こすことができる力が含まれると考える。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・千葉市や大学・企業等と連携し、身近な地域課題からグローバルな社会課題をテーマとした国内及び海外でのフィールドワークや調査研究の実施

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

・「チーム学校」の取組みへの支援

など

ウ　グローバル社会や多文化共生社会の一員としての視野を広げることのできる教育環境を整え、英語でディスカッションができる人材を育成する必要がある。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

・留学生の受入れや外部人材の積極的な活用

・海外の大学進学へも対応できるカリキュラムの検討

など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

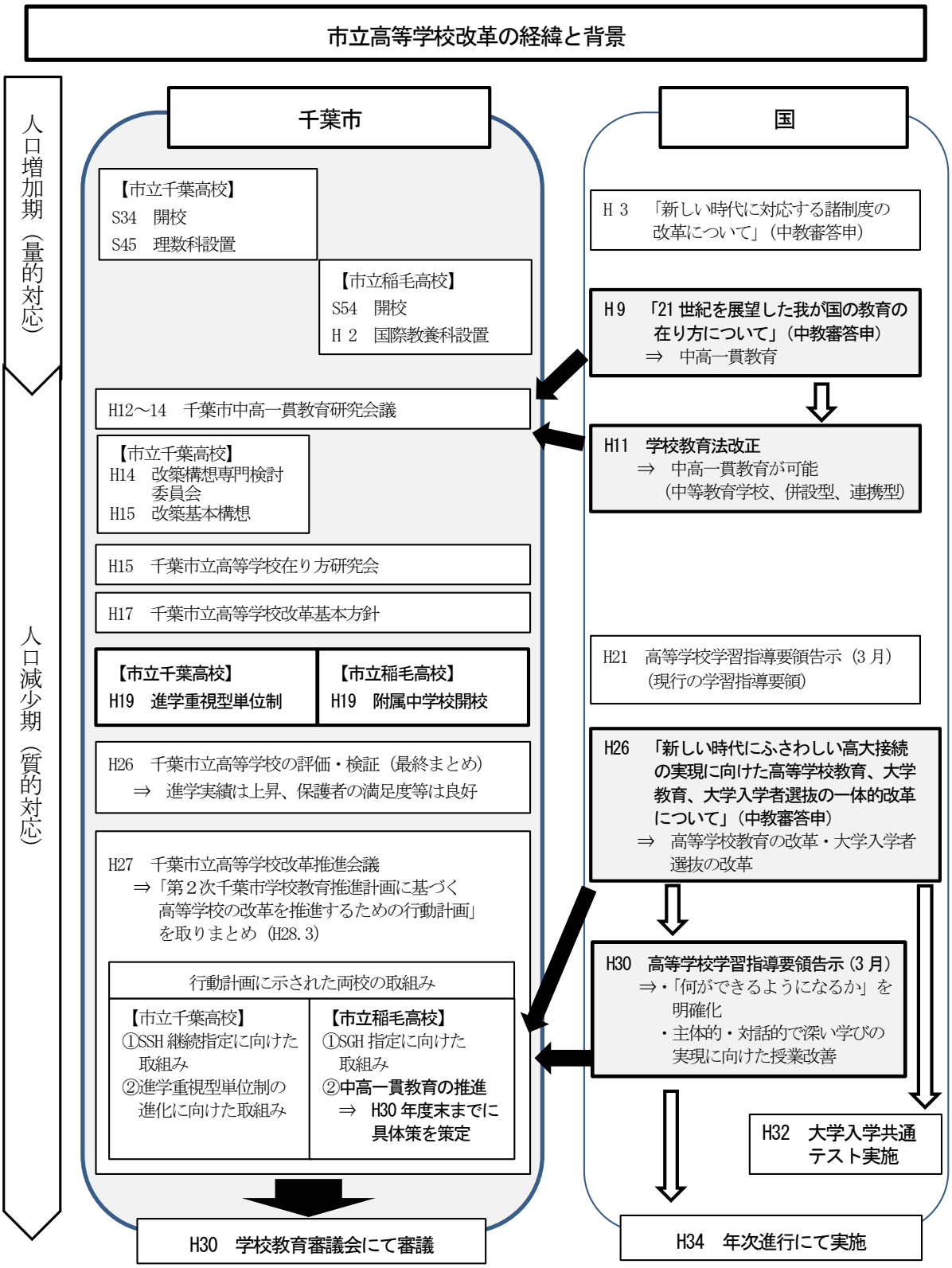
・各学年１名程度の外国人講師配置

・中国語等の英語以外の言語科目の設定や当該言語の外国人講師の配置

など

資料編

【資料１】市立高等学校改革の経緯と背景のイメージ図



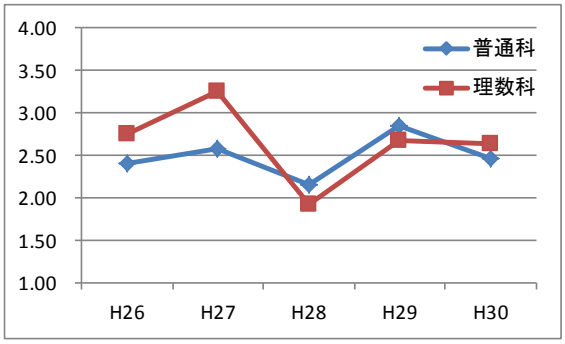
【資料２】両校の入学者選抜における志願倍率推移

両校の入学者選抜における志願倍率推移

（1）市立千葉高等学校

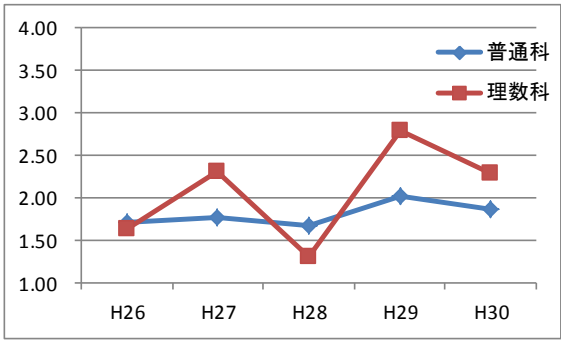
【前期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	2.40	2.58	2.15	2.85	2.46
理数科	2.75	3.25	1.92	2.67	2.63



【後期】志願倍率

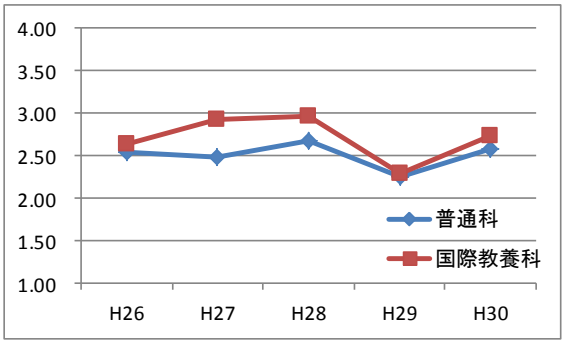
学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	1.72	1.77	1.67	2.03	1.86
理数科	1.63	2.31	1.31	2.80	2.30



（2）市立稲毛高等学校

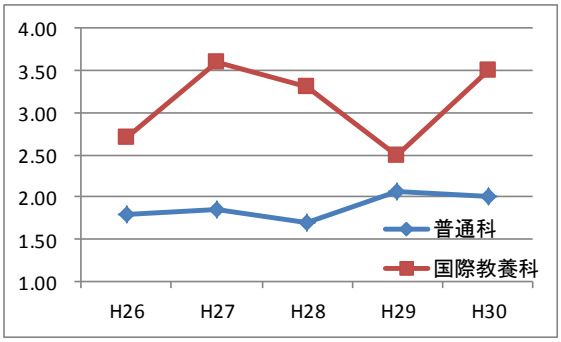
【前期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	2.54	2.48	2.67	2.26	2.58
国際教養科	2.63	2.93	2.97	2.30	2.73



【後期】志願倍率

学科名	H26	H27	H28	H29	H30
普通科	1.79	1.86	1.69	2.06	2.00
国際教養科	2.70	3.60	3.30	2.50	3.50



【資料３】千葉市内（第１学区）全日制公立高等学校志願倍率推移

千葉市内（第1学区）全日制公立高等学校志願倍率推移
（H26～30年度入学者選抜）

（1）前期選抜

学校名	H26	H27	H28	H29	H30
県千葉	3.58	2.82	3.27	3.29	3.00
千葉女子	1.71	1.77	1.56	1.51	2.12
千葉女子（家政）	1.66	1.44	1.23	1.38	1.73
千葉東	2.79	2.89	2.94	2.86	3.25
千葉商（商業・情報システム）	1.48	1.69	1.33	1.47	1.37
京葉工業（機械）	1.41	1.38	1.10	1.15	1.00
京葉工業（電子工業）	1.30	1.02	1.26	0.91	1.10
京葉工業（設備システム）	1.16	1.19	1.05	1.18	1.03
京葉工業（建設）	1.72	1.44	1.30	1.45	1.08
千葉工業（電子機械）	1.27	1.55	1.11	0.95	1.21
千葉工業（電気）	1.08	1.44	1.09	1.46	1.19
千葉工業（情報技術）	1.22	1.75	1.03	1.18	1.25
千葉工業（工業化学）	1.72	1.91	1.28	1.18	1.08
千葉工業（理数工学）			1.35	0.65	0.80
千葉南	1.95	1.94	1.97	1.80	1.95
検見川	2.60	2.54	2.28	2.32	2.51
千葉北	2.05	2.09	1.98	1.85	1.76
若松	1.63	1.93	2.03	1.93	1.79
千城台	1.55	1.47	1.61	1.61	1.70
生浜	2.02	2.19	1.75	2.35	2.23
磯辺	2.53	2.08	2.20	2.84	1.74
泉	1.86	1.37	1.15	1.40	1.07
幕張総合	2.61	2.52	2.47	2.59	2.29
幕張総合（看護）	2.41	1.66	1.88	2.15	2.48
柏井	1.63	1.56	1.36	1.38	1.26
土気	1.59	1.77	1.63	1.53	1.65
千葉西	2.22	2.19	2.51	2.05	2.28
犢橋	1.79	1.67	1.52	1.67	1.77
市千葉	2.40	2.58	2.15	2.85	2.46
市千葉（理数）	2.75	3.25	1.92	2.67	2.63
稲毛	2.54	2.48	2.67	2.26	2.58
稲毛（国際）	2.63	2.93	2.97	2.30	2.73
第1学区倍率	1.94	1.93	1.78	1.82	1.82
県平均倍率	1.83	1.82	1.73	1.75	1.74

※（　）は、学科名。（　）なしは普通科。後期選抜も同様。

※千葉工業（理数工学）は、H28年度に開設。

（2）後期選抜

学校名	H26	H27	H28	H29	H30
県千葉	2.81	1.98	2.03	2.38	1.95
千葉女子	1.47	1.49	1.13	1.40	1.89
千葉女子（家政）	1.75	1.25	－	－	－
千葉東	1.91	2.01	1.98	1.89	2.10
千葉商（商業・情報システム）	1.67	1.66	－	－	－
京葉工業（機械）	1.44	1.31	－	－	1.50
京葉工業（電子工業）	1.25	1.19	－	1.71	－
京葉工業（設備システム）	1.25	1.13	－	－	－
京葉工業（建設）	1.63	1.25	－	－	1.50
千葉工業（電子機械）	1.19	1.44	－	－	2.00
千葉工業（電気）	1.00	1.38	－	－	2.50
千葉工業（情報技術）	1.00	1.63	－	2.00	－
千葉工業（工業化学）	1.25	2.00	－	－	－
千葉工業（理数工学）			－	0.46	0.67
千葉南	1.34	1.58	1.38	1.29	1.53
検見川	1.85	1.78	1.94	1.71	1.79
千葉北	1.74	1.49	1.44	1.44	1.32
若松	1.07	1.34	1.22	1.52	1.36
千城台	1.27	1.11	1.63	1.28	1.45
生浜	0.94	1.63	1.06	1.53	1.63
磯辺	2.05	1.72	1.84	1.91	1.55
泉	1.94	1.25	1.29	1.62	1.13
幕張総合	1.78	1.78	1.71	1.91	1.63
幕張総合（看護）	2.75	2.00	－	－	－
柏井	1.18	1.08	0.88	1.18	0.77
土気	1.12	1.27	1.51	1.21	1.20
千葉西	1.68	1.60	1.82	1.42	1.63
犢橋	1.44	1.36	1.22	1.37	1.33
市千葉	1.72	1.77	1.67	2.03	1.86
市千葉（理数）	1.63	2.31	1.31	2.80	2.30
稲毛	1.79	1.86	1.69	2.06	2.00
稲毛（国際）	2.70	3.60	3.30	2.50	3.50
第1学区倍率	1.59	1.62	1.54	1.72	1.69
県平均倍率	1.40	1.39	1.43	1.44	1.40

※千葉工業（理数工学）は、H28年度に開設。

※専門学科については、H28年度入学者選抜から前期選抜において募集定員の枠を100%までとすることができる。
前期選抜枠を100%と定めた学科において、入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数が
募集定員を満たす場合には、後期選抜を実施しない。

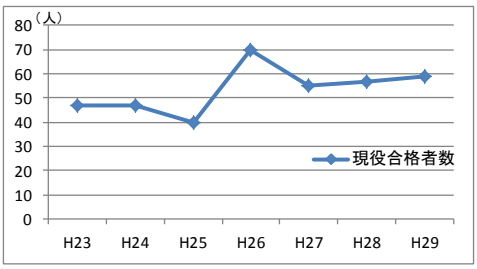
【資料４】両校における４年制大学現役合格者数

両校における4年制大学現役合格者数

(1)市立千葉高等学校

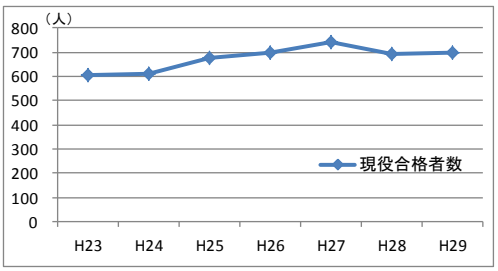
【国公立大学】(延べ数(人))

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	47	47	40	70	55	57	59



【私立大学】(延べ数(人))

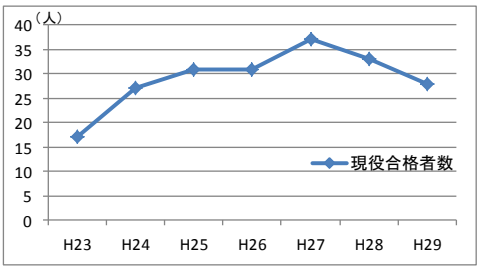
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	606	612	676	696	741	690	698



(2)市立稲毛高等学校

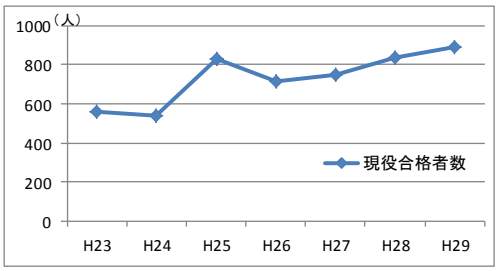
【国公立大学】(延べ数(人))

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	17	27	31	31	37	33	28

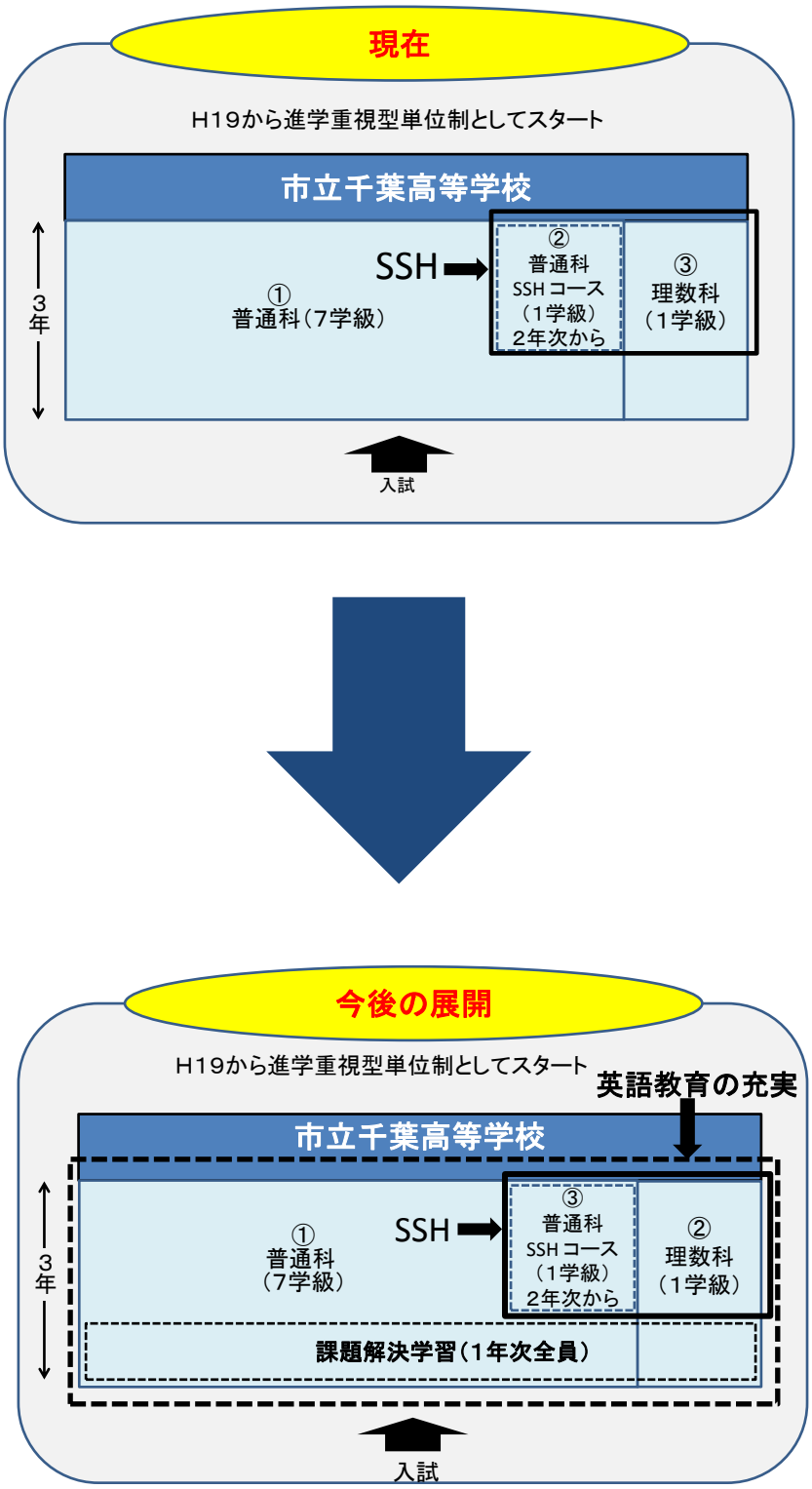


【私立大学】(延べ数(人))

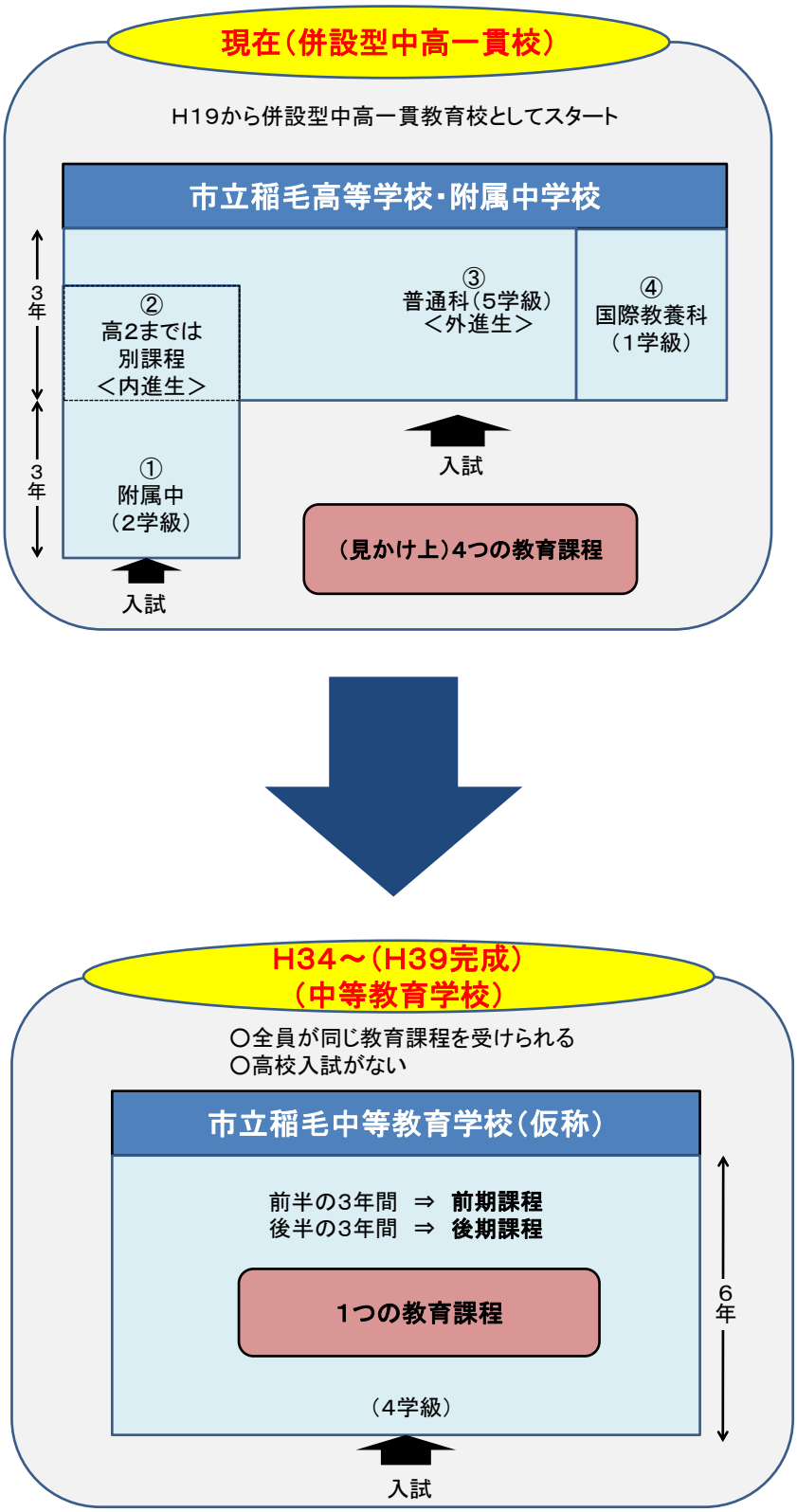
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
現役合格者数	558	543	832	713	748	835	889



【資料５】市立千葉高等学校の改革のイメージ図



【資料６】市立稲毛高等学校・附属中学校の改革のイメージ図



【資料７】市立稲毛高等学校・附属中学校における中等教育学校の基本的な枠組みについて

（１）開校時期

○　平成３４年４月の開校を目指す。

○　開校初年度の前期課程では２学級増の４学級とするが、同年度高等学校入学者選抜においては、２学級減の６学級とし、段階的に高等学校の定員を削減するものとする。中等教育学校の完成（１期生から６期生までそろう時期）は、平成３９年度となる。

（２）学校規模

○　学年の定員は１６０名とし、１学級が４０名の４学級規模とする。

○　学校規模は、６学年２４学級の９６０名となる。

学校規模でみる中等教育学校への移行スケジュール(例)　　※表中の数字は学級数。

年度		H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	中等教育学校	
高等学校	3年	8	8	8	8	8	6	6	6	4	4	6年	後期課程
	2年	8	8	8	8	6	6	6	4	4	4	5年	
	1年	8	8	8	6	6	6	4	4	4	4	4年	
附属中学校	3年	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	3年	前期課程
	2年	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2年	
	1年	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	1年	
学校規模		30	30	30	30	30	30	28	26	24	24		

4月
開校

［移行期における学校の存立状況］

平成 33 年度まで　市立稲毛高等学校，附属中学校

平成 34・35 年度　中等教育学校，附属中学校，市立稲毛高等学校

平成 36～38 年度　中等教育学校，市立稲毛高等学校

平成 39 年度　　中等教育学校（１期生～６期生までそろう）

（３）設置課程・学科

○　後期課程については、全日制の課程・普通科とし、単位制を導入する。

○　後期課程に設置するのは普通科とするが、これまで国際教養科で培ってきた成果を生かした教育課程を検討する必要がある。

（４）通学区域
○　通学区域は、千葉市内とする。

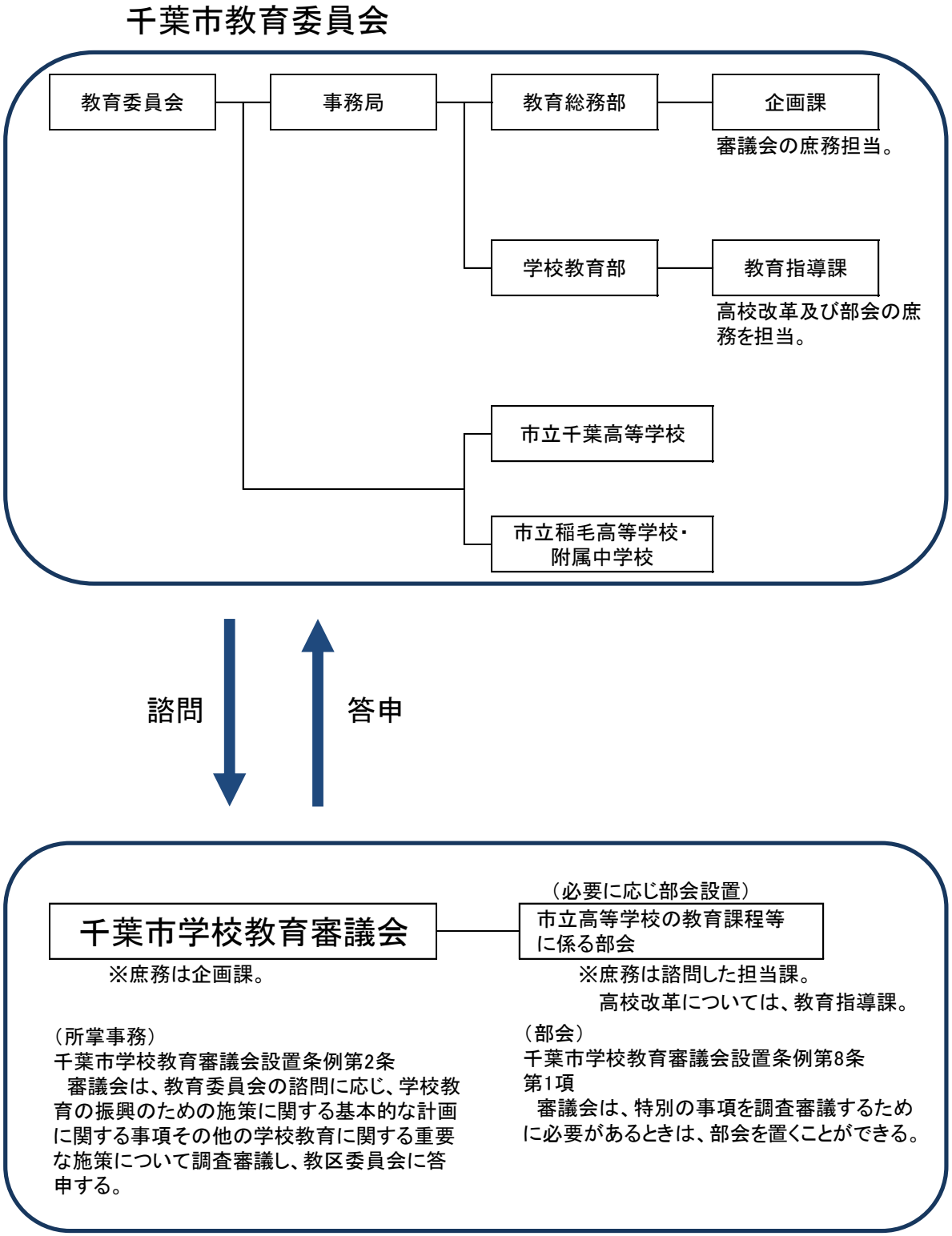
（５）施設改修
○　平成３１年度に実施する劣化度調査の結果を踏まえ、実施計画を策定し施設改修を行う。
○　主体的・対話的で深い学びを実施するにあたり、活用しやすい少人数授業対応の教室等を設置する。

（６）入学者選抜
○　受検生にとっては、小学校６年生の段階で高等学校卒業までの進路選択をすることとなるので、学校の教育方針、教育課程等について十分な説明を行う。
○　前期課程から後期課程への入学者選抜は行わないため、前期課程入学時のみの実施となる。
○　入学者選抜の実施時期は、附属中学校の現在の実施時期と同じ時期が考えられる。
○　検査内容については、実施時期と併せて、慎重に検討を行い決定する。

（７）中等教育学校への移行に向けた検討会及び準備室の設置
○　入学者選抜や教育課程等を検討するため、教育委員会及び市立稲毛高等学校・附属中学校関係者、学識経験者等からなる検討会を設置する。
○　教育委員会内に準備室を設置する。

審議経過

（１）千葉市学校教育審議会と千葉市教育委員会との関係組織図（略図）



（２）平成３０年度における審議経過

平成２９年度

３月　・政策会議

平成３０年度に審議会にて審議することについて協議

平成３０年度

４月　・千葉市立高等学校改革推進会議（第１回）（教育委員会事務局内の会議。以下、改革推進会議という。）

審議会への諮問について協議

５月　・第１回審議会

千葉市教育委員会教育長から諮問並びに部会設置の承認

６月　・部会

市立千葉高等学校の理数教育拡充の具体像について及び市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行に伴う教育課程などについて審議

７月　・改革推進会議（第２回）

第１回審議会及び部会報告並びに市立高等学校改革の方向性について協議

７月　・第２回審議会開催

市立高等学校改革の方向性について審議

１０月　・改革推進会議（第３回）

答申素案について協議

１１月　・第３回審議会

答申素案としての「市立高等学校改革の方向性」（素案）について審議

１２月　・改革推進会議（第４回）

答申案について協議

１月　・第４回審議会

市立高等学校改革の方向性について答申